石巻専大の輝き地域を活性化

宮城県東部、旧北上川の河口に開けた県内第２の都市・石巻市。その豊かな自然の下で学ぶ石巻専大生には県外出身者も多い。石巻の街や大学にはどんな魅力があるのか、市内出身の教員と語り合った。

学生・教員座談会

出席者

▽大平楓月さん（理工学部生物科学科3年、硬式野球部マネジャー、埼玉県星野高）
▽徳永航也さん（人間学部人間教育学科3年、硬式野球部、宮城県東北生活文化大学高）
▽小川裕稀さん（経営学部経営学科4年、石原慎士ゼミ、バドミントン部、青森県八戸商業高）
▽大谷尚文人間学部教授（石巻市門脇地区出身、主な担当はフランス文学論）
▽佐々木万亀夫経営学部教授（石巻市住吉地区出身、主な担当はネットワーク管理論）
▽木村民男人間学部教授（石巻市大谷川浜出身、主な担当はキャリア設計）＝司会

大平楓月さん

徳永航也さん

小川裕稀さん

大谷尚文教授

佐々木万亀夫教授

木村民男教授

石巻の魅力

木村民男教授（司会）　石巻で学生生活を送って3年目、4年目になる学生の皆さんに石巻や石巻専修大学の魅力について語ってもらいます。地元出身のわれわれには気づかない石巻の良さ、素晴らしさを教えてもらえるものと期待しています。

小川裕稀さん　出身は青森県八戸市です。青森県といえばねぶたが有名ですが、八戸には八戸三社大祭があります。高校生の時にサバだしラーメンを開発した経営学部・石原慎士ゼミの活動を知り、自分も復興に携わりたいと思い入学しました。

大平楓月さん　さいたま市出身で、古い町並みが残り小江戸といわれる川越市の高校に通っていました。もともとクジラに興味があり、高校の担任に勧められたのが海洋生物コースのある石巻専大の生物科学科です。高校までは器械体操やバスケットボールをしていましたが、大学では新しいことに挑戦しようと硬式野球部のマネジャーになりました。野球の知識はゼロでしたが、部員が頼りにしてくれてすごくやりがいがあります。

徳永航也さん　仙台出身です。大学でも野球を続けたくて、硬式野球部のある大学を志望しました。高校の担任に「本当に学びたい学部でなければ勉強と両立するのは難しい」と助言され、石巻専大の人間教育学科を選びました。子どもが好きなので教員を目指しています。

佐々木万亀夫教授　以前は小柴昌俊先生がノーベル賞を受賞して有名になった、ニュートリノ物理学を研究していました。物理学から情報関係の教員になる先輩も多く、私も石巻専大が開学する際、経営学に方向転換しました。数学で割り切っていたのが、経営学に身を置いて人間味が増した感があります。住吉小、住吉中学校を卒業しました。

大谷尚文教授　3歳の故郷の石巻に越してきました。震災遺構になる旧門脇小学校が母校です。子どもの頃は南浜町の砂浜でよく遊びました。弘前大学に20年勤め、47歳の時に石巻専大の教員になりました。

木村　もともとは中学の教員で石巻中学校の校長を最後に定年退職し、東松島市の教育長を務めました。人間学部の開設に合わせて石巻専大の教員になり5年になります。それでは本題に入りましょう。石巻の魅力だと思うことをお話しください。

小川　魚がおいしいことだと思います。石原ゼミは東日本大震災で被災した企業と連携して商品の企画・開発をしていますが、サバやギンザケは中骨も食材として活用できます。実は宮城県は養殖ギンザケの生産量が日本一なんです。石巻の魚のおいしさを全国に発信しようと取り組んでいます。

佐々木　昔はカツオとサンマは買うものじゃないと言われるほどよく獲れて、うちも親戚の漁師さんからただでもらったものです。個人的にはクジラが好きですが、マンボウの酢みそ和えもおいしいですよね。

木村　ホヤも有名ですが、目の前が漁場で新鮮だからおいしい。新鮮なものがいろいろ手に入るのが石巻なんですね。

大谷　20年ぶりに石巻に戻り、最初に食べたごはんに驚きました。米がとてもおいしい。1週間もたつとそれが当たり前になってしまいましたが、実は石巻の人は相当においしいものを食べています。

木村　魚も米も野菜もおいしい土地柄ですが、慣れっこになっているところがありますね。

徳永　石巻は星がきれいで、特にサン・ファン館（宮城県慶長使節船ミュージアム）近くの高台から眺める星空は最高です。暗い海が広がる沖に船が見えます。流れ星を見ていると気持ちがやらぎます。

木村　硬式野球部は今季頑張っていますから、先生方も後押ししていました。

大平　いよいよ海洋生物コースの専門科目が後期から始まるので楽しみです。高校時代はクジラを研究したいと思っていたのですが、大学で角田出教授の魚類生理生態学や佐々木洋教授の海洋生態学の講義を聞き、魚類のストレス応答やプランクトンからバイオエネルギーを生み出すというテーマに関心を持つようになりました。

木村　東北の私大で生物の学科があるのは石巻専大だけです。

大平　東日本大震災の被災地で学ぶことにも意義があるのではないかと高校の先生に言われたのですが、来て良かったです。石巻専大の良さとしては先生や職員の方と学生の距離が近いことだと思います。事務の手続きなどでも係の方が親しみやすい態度で接してくれるので、何か分からないことがあった時に相談しやすい感じです。

小川　ゼミの活動が充実していることです。東京や青森など県外の出張販売でいろいろなお客さんと接することができます。学生と先生の距離が近いというのは同感で、小中高校の先生より自分のことを親身に考えてくれていると感じます。

大谷　学生も素直で人懐っこい。自宅に何人か学生を呼んだ時にお客さんが来たことがあります。ピンポーンと鳴ったら学生の1人が出て行って「わざわざ遠いところから…」なんて応対する。そういう気さくなところがいいですね。

佐々木　東京などから来学した方は、うちの学れ教員の指導力次第で学生は伸びていくはずで

サン・ファン館に係留されている復元船サン・ファン・バウティスタ号

生物科学実習で海洋生物の分布を調査する＝石巻・万石浦海岸

石巻専大の特徴

専門性高いゼミ・研究活動
学生と教職員の距離近い

木村　石巻専大に入っておかったのはどんなことですか。

徳永　やはり野球の話になりますが、同じ情熱を持つ仲間と野球に打ち込めることです。硬式野球部は90人を超えており競争が厳しいですが、切磋琢磨できる環境は楽しいです。9月から教育実習が始まるので気を引き締めています。

木村　教育実習の時期を変更してもらったんでしたよね。

徳永　大会の関係で、先生にお願いして本来は8月中に始まるのを繰り下げてもらいました。

木村　硬式野球部は今季頑張っていますから、先生方も後押ししていました。

大平　いよいよ海洋生物コースの専門科目が後期から始まるので楽しみです。高校時代はクジラを研究したいと思っていたのですが、大学で角田出教授の魚類生理生態学や佐々木洋教授の海洋生態学の講義を聞き、魚類のストレス応答やプランクトンからバイオエネルギーを生み出すというテーマに関心を持つようになりました。

木村　東北の私大で生物の学科があるのは石巻専大だけです。

大平　東日本大震災の被災地で学ぶことにも意義があるのではないかと高校の先生に言われたのですが、来て良かったです。石巻専大の良さとしては先生や職員の方と学生の距離が近いことだと思います。事務の手続きなどでも係の方が親しみやすい態度で接してくれるので、何か分からないことがあった時に相談しやすい感じです。

小川　ゼミの活動が充実していることです。東京や青森など県外の出張販売でいろいろなお客さんと接することができます。学生と先生の距離が近いというのは同感で、小中高校の先生より自分のことを親身に考えてくれていると感じます。

大谷　学生も素直で人懐っこい。自宅に何人か学生を呼んだ時にお客さんが来たことがあります。ピンポーンと鳴ったら学生の1人が出て行って「わざわざ遠いところから…」なんて応対する。そういう気さくなところがいいですね。

佐々木　東京などから来学した方は、うちの学れ教員の指導力次第で学生は伸びていくはずで落ち着きがある」と言います。確かに出張などで他大学の学生を見るとうちの学生のほうが話しかけやすいという感じです。

大谷　石巻専大生、大好きです。

佐々木　僕は豊かな自然に恵まれた石巻の環境は、欧米の大学にひけを取らないと思っています。英国のオックスフォード大学があるのは人口約16万人、ケンブリッジ大学があるのは人口約13万人の都市で、大学が街を形成しているようなところがあります。人口は石巻とほぼ同じ規模ですが、メインストリートは震災前の石巻より地味なくらいです。オックスフォードもケンブリッジもロンドンから特急で1時間前後、欧米の名門大学はこういう地方都市にあります。石巻専大は立地的には世界標準で、学生の気質は良いし、われわれの指導力次第で学生は伸びていくはずです。

木村　皆さんのお話を総合すると「石巻専大が石巻市の活性化の中核になる」ということですね。私も石巻を盛り上げたくてダンス愛好会と共に「石巻復幸踊りエンヤドットプロジェクト」という新しい踊り作りに関わっています。石巻専大が輝くことが石巻を発展させる。そのことを今日改めて認識しました。

温かく迎えてくれる人々
豊かな海と開かれたまち

日和山から市街地を展望する

大谷　外部の人を受け入れやすいというのは、一つには船に乗ってどんな外の世界へ出て戻って来る。石巻の底流には一種の国際性があると思っています。もう一つは城下町ではないということ。城下町にはいろいろなしがらみがありますが、そうではない石巻は伝統に縛られない分、人が気安く出入りしやすい。おすそ分けしたり振る舞ったりすることが当たり前みたいなところがあります。

木村　私が生まれ育ったのは石巻でも女川町の下のほう、牡鹿半島の大谷川浜です。半農半漁の集落でしたが、水揚げした魚を巡航船に積み込む時にわれわれ小さい子どもがバケツを持って立っていると「あんちゃん魚か」と10匹くらいよこしてくれる。ぶっきらぼうですが優しくて、人を受け入れたり物を施すことをいとわない。世界に開かれ、人や文化を受け入れてきた石巻ならではの気質かもしれません。ときどきぶつきにくいところがありますが、温かい地元の人との交流は皆さんの大学生活を豊かにしてくれると思います。

大平　星はきれいだと思います。初めの頃は街灯が少なくて怖いと思いましたが、上を見たらすごい数の星が輝いていて見とれました。

小川　夜ランニングすることが多いのですが、星空はきれいです。海も見ているだけでいやされますし、考事をする時は景色を見ながら一人で走ります。

木村　石巻には400㍍級の山が四つ五つありますし、平野も川も海もあります。4拍子そろっていることについて、先でしょう。市内が見渡せる日和山からは田代島、網地島や牡鹿半島越しに金華山も見えますから、一度は足を運んでほしいと思います。

大平　石巻では人とのつながりを強く感じます。練習する球場でもアルバイト先でも地元の方がよく声を掛けてくれて、石巻のことを話してくれます。よそから来た自分を歓迎してくれていると感じられてうれしくなります。

木村　人を受け入れるということについて、先生方いかがでしょうか。

佐々木　石巻は伊達政宗の時代から交通の要衝で、米や農産物を一度石巻に集積して仙台に運んでいました。いろいろな所からいろいろな人が集まったことが人を受け入れる土壌になっていると思います。

石巻川開き祭りにそろいの浴衣で参加する学生

発展する石巻へ

木村　最後は石巻と石巻専大をさらに良くするためにはどうしたらいいか考えていきましょう。ですね。

徳永　硬式野球部や女子競走部が頑張っているので、あともう一つぐらい活躍するサークルが出てくると志願者が増えると思います。石鳳祭など地域の人たちと交流できる機会に、もっと自分たちの良さを伝えることが大事だと思います。

木村　部活動の活躍、良いですね。私は剣道部の部長なので、剣道部を強くしたい。スポーツでも吹奏楽でも文科系サークルでも、学生のはつらつとした姿を見せる場と

学生たちの熱気伝えたい
産業の復興へ連携しよう

ーパーなどに置いてもらい、誰でも入手できるようにして、小学生も楽しめる企画を考える。石鳳祭をきっかけに進学したいと思う中高生が増えるかもしれません。

小川　自分も部活動の強化が必要だと思います。全国レベルで活躍するサークルが増えれば注目されます。「石巻専修大学にはこういう強いサークルがある」と大学や石巻市がPRしてバックアップすることが重要だと思います。復興や震災という言葉が薄れていく中で、石巻の良さをどうやって知ってもらうかいえばメディアによる発信や観光面の強化は重要です。メディアの力で注目が集まれば人は来ます。集客の仕組みができると自分は思います。

木村　発信することが大切という指摘がありました。まとめると「石巻専大の活性化を図ることが石巻市の活性化につながる」「大学と地域は一体となって発展できる」ということかと思います。「仙北に一つしかない四年制大学」という石巻専大の特色をどう表現していくか、それがすなわち石巻市をもっと魅力的な街にすることにつながると思います。

大谷　僕は先ほど「石巻には城下町のレガシーがない」と言いましたが、石巻専大自体がお城になるしかないという気がしてきました。そういう決意でわれわれは頑張らなければならない。運動部が強くなって人を集めるということは、城の石垣や天守閣を高くする役割と同じなのではないかと皆さんの話を聞いて思いました。

佐々木　石巻市の人口は東日本大震災以降、流出しています。先ほど申し上げたように大学の価値は人口の規模とは関係ありませんが、日本では多くの大学が東京に集中しているようにある程度の人口がないと立ち行きません。地元の産業を活性化して人口回復に大学がどう貢献できるか、企業の方といろいろ話をしていますが、より一層、石巻専大と石巻市、産業界の連携が重要になると思います。

木村　皆さんのお話を総合すると「石巻専大が石巻市の活性化の中核になる」ということですね。私も石巻を盛り上げたくてダンス愛好会と共に「石巻復幸踊りエンヤドットプロジェクト」という新しい踊り作りに関わっています。石巻専大が輝くことが石巻を発展させる。そのことを今日改めて認識しました。

学内外で活躍する吹奏楽研究会